

## 県復興委員会 第 12 回総合企画専門委員会の審議概要について

### 1 開催概要

(1) 日時等

平成 26 年 3 月 19 日 (水) 13 : 00 ~ 15 : 00 エスポワールいわて「大ホール」

(2) 審議事項等

- ① 県民意見の聴取等の実施状況について (報告事項)
- ② 復興実施計画 (第 2 期) (2 次案) について (審議事項)

### 2 復興実施計画 (第 2 期) (2 次案) に対する主な意見

- ・ 復興実施計画 (第 2 期) (2 次案) については、基本的に承認されました。
- ・ 審議中に出された主な意見は、次のとおりです。

#### ○人口減少への対応について

(平山委員)

- ・ 人口減少への対応についてどのように考えるか、今後当委員会として議論していくべき。

(谷藤委員)

- ・ 現在の人口動態だけではなく、**将来の人口、雇用の状況、商業機能の回復状況なども考慮していくべき。**

(緒方委員)

- ・ 人口減少への対応についての議論も必要だが、残っている人々が活力ある産業を推進していくことがより重要。そのためには**第 2 期復興実施計画の事業や三陸創造プロジェクトをきちんと推進していくことが基本**となる。

(平山委員)

- ・ 人口についてこの場で議論できたのは有意義だった。現段階では、正確な人口動態と見通しを捉えることは困難であることが分かった。まずは、人口の観点にも留意しながら、**計画の推進に最善を尽くすことが重要**と感じた。

(齋藤委員長)

- ・ 人口が何割戻るか、という議論より、**人口増のための戦略を示すことが重要**。そのため、本計画は右肩下がりの戦略ではなく、復興交付金など国の財源も活用し、**もっとプラスにするための戦略であることを住民や市町村に説明していくことが重要**。

#### ○復興の進捗に関する情報の共有について

(緒方委員)

- ・ 復興計画に関する地域住民への説明については、**国や市町村の計画も含めた説明が望まれているのではないか。**

(齋藤委員長)

- ・ **本格復興**で地域がどうなるのかの**イメージを分かりやすく、端的に県民に伝えられることが重要**。

(次ページに続く)

(南委員)

- ・ 震災から3年が経過し、今後震災に関する報道が少なくなっていく恐れがある中、**分かりやすい概念で復興が進んでいることを公表していくことが重要。**

○三陸創造プロジェクトについて

(豊島委員)

- ・ **三陸ブランドの確立**のためには水産業における**高度衛生品質管理体制の構築が重要な要素**だ。117ページの「**さんりく産業振興プロジェクト**」における目的の中にもその表現を入れてほしい。
- ・ 121ページの「**新たな交流による地域づくりプロジェクト**」の「**地域コミュニティの活性化**」にある「**震災を契機とした交流人口の拡大**」は意味が通じない。「**復興活動を契機とした交流人口の拡大**」などの表現に訂正してはどうか。

○その他

(若林委員)

- ・ まちづくりやインフラの維持管理など**単独の自治体では負担が大きい業務**について、今後近隣自治体と**連携・協約して取り組むなど広域的連携を推進**していくことが必要。
- ・ 「**海岸保全施設等整備事業（養浜）**」（高田地区海岸）は、地盤が1m程度沈下していることや、気仙川の河口堆積物が上流に移動しているため砂浜に堆積しづらい状況にあることから、**長い目で対応していく覚悟**が必要。

(谷藤委員、平山委員)

- ・ 大学・研究機関等の協力による**研究開発シーズの事業化・商品化**については、これからも**支援していく必要**がある。

(豊島委員)

- ・ 高台移転工事の進展に伴い、河川等への土砂の流入が考えられるが、放射性物質の影響に係る継続的な**水質のモニタリングが必要**。

(南委員)

- ・ 今後、まちづくりが進展し、応急仮設住宅から恒久的な住まいへの移転が本格化していくことにより**一時的に地域コミュニティが分散されることから、各地域を結ぶ交通手段を検討していく必要**がある。

○委員長総括

前回の当委員会の意見やパブコメ・地域説明会における意見なども踏まえてかなり修正を加えていただき、しかるべき**第2期計画**として、**仕上がってきている**と評価。

今後は、**本計画を推進していくことを基本とし、具体的に掲げられた事業を一つずつ進展させていくことが重要。**

以上